

介護部会 西ブロック会議 報告書

実施日 令和5年 12月 11日 13:00～15:00

会議実施会場 介護老人保健施設 スカイ
ZOOM会議

参加人数 6 施設 9 名 参加
スカイ 2名 ユトリウム 2名 千の星 2名 ハートケア横浜 1名
ハートケア横浜小雀 1名
リパーク舞岡 1名 (Web参加)

議事項目 テーマ: ・在宅復帰への取り組み
・合同シンポジウムについて

A施設:

入所前から入所後までの各業種が何をやるかの基本項目のフローチャートを作り、フローチャートをベースに進めている。

入所前に在宅が希望の方、在宅復帰が見込める方には、通常3ヶ月に1回のカンファレンスから月1回のカンファレンスを行い、現状確認、ご本人やご家族の気持ちをつなぎとめる様に関わっている。また、月1回多職種が集まり在宅復帰に向けての話し合いを行っている。内容として、在宅復帰に対しての成功例、反省点、現状等の共有を行っている。

入所前、退所後訪問を積極的に行い、入所後在宅復帰に向けての問題点の確認、退所後のフォローアップを行っている。月の入院者は概ね10名前後。

自身で行ってもらえるような促しが大切。実施内容の目的を理解していることが大切。

歩行が目的なのか、緊急時の排泄が目的なのかによって、その場の介助方法が異

B施設:

情報共有を月に1回実施し、3ヶ月1回多職種でのカンファレンスを実施している。

フロアリハビリはリハビリ科がメニューを作成し、介護職が実施している。

家族(主介護者)への介護の技術指導を行っている。

月の入院者は1～3名程度

C施設:

家族の意向確認を行っている。
介護職によるフロアリハを取り組んでいる。
月の入院者は1~3名程度
リハビリから在宅復帰向けの個別リハプログラムが出てくる。
業務に追われ時間が取れにくい、時間を作って実施している。
生活リハの一環で実施している。
スタッフの負担が大きいところがある。
一般⇒認知の転階の家族に理解してもらうことが難しい。

D施設:

1週間前後で意向確認を行っている。まずは職員のみでカンファ実施。
在宅は1か月後に家族・多職種でカンファ実施。
入所時に入所後訪問実施 問題点・課題点の抽出と提案を行っている。
月の入院者は1~3名程度、多くて4~5名。
老健で対応できる医療処置は施設で対応するようにしている。
「トイレができれば自宅でも・・・」という意見が多い。
排泄については訪問時の写真確認、自宅では車椅子は入らない。
夜間トイレの説明をしている。
歩行能力等はリハで確認。
自力でのパット交換。確認のためスタッフが付き添い。
排泄はなるべく、自身で行ってもらえるよう促す。

E施設:

1週間前後で意向確認を行っている。ケアマネと家族とで相談し方向性を決定していく。
その後リハビリ科と相談し、多職種カンファレンスを実施している。
入所、退所の前後訪問を行っている。
月の入院者は1~3名程度

F施設:

入所前訪問の実施。

1週間後のカンファレンスの実施。

介護職によるフロアリハを行っている。

早番、日勤、遅番のように在宅復帰という勤務帯がある。

月の入院者は1～3名程度

質疑応答

合同シンポジウム

テーマ: 質の高いサービスを目指して

介護部会シンポジスト: ハートケア横浜小雀

次回 開催施設・テーマ

開催日

6月の第2月曜日13時～15時

開催施設

ライフモア保土ヶ谷(予定)・web会議併用

テーマ

①介護報酬改定での変化、体制の構築等

②ICTや介護ロボット等の導入状況

来年度の予定

今年度同様ブロック会議は6月、9月、12月の第2月曜日に実施する。

ブロック長は引き続きハートケア横浜小雀赤司が担当する。

再来年度は境木の丘さんへ引き継ぎを行っていく。

今回にて今年度のブロック会議は終了。